日本精神保健社会学会　2022 年 7 月 15 日
THE JAPAN ASSOCIATION OF MENTAL HEALTH SOCIOLOGY
＜日本学術会議協力学術研究団体 No.1001＞
ニュースレター第 75 号
発行人:宗像恒次　編集人:山本美奈子
事務局: 東京都豊島区西池袋 2-39-8
ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内
日本精神保健社会学会事務局: 担当/村上
TEL : 03-3986-3220/ FAX 03-3986-3240
E-mail:murakami@t-mental.co.jp

第 28 回 日本精神保健社会学会学術大会に向けて

第 28 回 学術大会実行委員長
筑波技術大学保健科学部教授　殿山 希

大会実行委員長として一言ご挨拶申し上げます。

日本精神保健社会学会では、新型コロナウィルス感染症が始まってすぐの 2020 年の学術大会より大会テーマとして、コロナ禍における社会状況の変化とそれによる人々のメンタルヘルスの問題に着目してきました。2020 年には、『メンタルヘルスにおける乗り越え力を高める危機状況―個人の危機と社会の危機―』、2021 年には、『コロナ禍のストレスを乗り越えるレジリエンスの課題―個人の課題と社会の課題―』を大会のテーマにして、個人においても社会においても、その状況を乗り越えることがこれまでとは異なる対処システムパターンへの変化が求められる現代の「危機状況」において、情動変容の方法を知り、ストレス自体をなくすことはできなくともストレスを乗り越えるレジリエンス力を高めることは可能であることを学んで心に力を得てまいりました。

さて、今年は、社会はいよいよコロナウィルス感染症との共生時代に突入します。そこで、第 28 回学術大会のテーマを『今、求められる社会システムの変化と課題』としました。

新型コロナウィルス感染症が最初に報じられて 2 年以上が過ぎた今年 3 月 21 日、全て

の都道府県でまん延防止等重点措置が終了しました。コロナウィルス感染者数もまだ日々報じられ続けており、終息宣言はまだまだ先でしょうが、積極的に経済の回復をめざす社会の動きが本格化しています。これからはコロナウィルス感染症の脅威とだけ共生するわけではありません。ここ2年半にもたらされた社会の変化とその対応を人々は受け容れなければならなくなるのです。この間に生活の仕方や働き方、人との関わり方が大きく変化しました。例えば、「新しい生活様式」の推奨やテレワークの推進、教育機関におけるオンライン授業の日常化、オンラインでの集会・会議・娯楽、遠隔診療、ネットショッピング、スマホ決済…。これらの変化を便利、住みよい、心地よい等と感じる人々が多くいる一方、対人距離の変化や技術の革新に戸惑う人も少なからず存在するのも事実だと思います。さまざまな格差を新たに産み出し、無理解や誤解を助長したのではないかと思わされることもあり、今までに検討されてきた社会の問題解決策では追いつかない、新たな支援の必要性に気づかされます。特に、高齢、一人親家庭、病気や障害、貧困、日本の国籍を持たない、ジェンダー不平等など、いわゆる社会的弱者と言われている人達、"マイノリティ"がますます生きづらさを感じることになる可能性も考えられます。

大きく時代が変化するターニングポイントだからこそ、本学会の学術大会当日は、社会の変化にまつわる新たな問題点を洗い出し、深く掘り下げ、解決策に迫りたいと思います。誰も落ちこぼれることなく、ともに生きられる社会、多様性を認め合い、それぞれが”違う”ということを愉しむことのできるポスト・コロナの未来の到来を切望しています。

第28回 日本精神保健社会学会学術大会・総会のお知らせ（第1報）

今年度の学術大会・総会は、新型コロナウィルス感染症（COVID-19)の終息が見通せない状況から、昨年度に引き続きオンラインでの開催となります。研究発表もオンラインでの発表になります。

●開催日時：2022年11月23日（水）祝日、10時00～17時00分

●大会テーマ： 今、求められる社会システムの変化と課題

①基調講演　宗像 恒次 学会長

（筑波大学ベンチャー株式会社SDS代表、筑波大学 名誉教授）

「今、求められる社会システムの変化と課題」

②シンポジスト

○光本　歩 氏（特定非営利活動法人ウィーズ副理事長）

「離婚家族のオンライン支援の光と闇」

○新行内 勝善 氏

（NPO 東京メンタルヘルス・スクエア カウンセリングセンター長）

「オンライン非対面コミュニケーションの広がりで変化している社会と人と私と」

○殿山 希 氏（筑波技術大学保健科学部 教授）

「IT 社会の明と暗ーダイバーシティが輝けるポスト・コロナの未来へー」

●ツ　ー　ル：ビデオ会議システム（Zoom）を用いて開催

●参加申込：学会事務局にメール（本ニュースレター 1ページ右上に記載）にて、**氏名、メールアドレス、電話番号を記載**のうえ、お申込みください。

●参　加　費：一般 4,000 円、学会員 3,000 円、学生 2,000 円

●参加振込み：**2022 年 11 月 11 日（金）**までにお振込みください。

振込名には、個人名および「参加費」とご記載ください。振込み確認後、学術大会・総会前日までに、招待メールをお送りします。運営の都合上、当日での参加はできませんので、ご理解とご協力をお願い致します。

●振込み先：ゆうちょ銀行　加入者名　日本精神保健社会学会　00170-6－613036

2022 年度「学会奨励賞」募集のお知らせ

今年度も「学会奨励賞」を募集いたします。エントリーを希望される方は、本学会ホームページの「日本精神保健社会学会奨励賞内規」の選考基準を充たしているかご確認のうえ、学会事務局にお問い合わせ下さい。ご希望の方に必要書類をお送りしますので、書類作成のうえ、9 月末日までにご応募ください。

★研究発表の募集★

1．発表の申込み

発表希望者は、演題名と学会指定の抄録を添え、代表者名、連絡先（電話およびメールアドレス）を記載のうえ、**10 月 5 日（水）**までにお申込みください。抄録の定型フォーマットは、本学会のホームページに**「実践報告型」**、**「科学研究型」**をアップしています。発表形式に応じていずれかを選択し、**A4、1 枚**にて記載してください。

2．申込み方法

学会事務局にメールにてお申込みください（本ニュースレター 1 ページ右上に記載）。

3．採択の可否

採択のご連絡は、**10 月 20 日（木）までに発表代表者にメールにてご連絡します。**なお、オンラインでの発表になりますので、発表者は 6 名になります。

4．発表要件

1）学会費の納付

発表者全員が本学会の会員であること。また、2021 年度の年会費（2021 年 10 月 1 日～2022 年 9 月 30 日）と 2022 年度の年会費（2022 年 10 月 1 日～）の納付済みであることを要件とします。

2）研究発表の参加費

研究発表の参加費は、**別途 2,500 円**が必要となります。振り込みは、**11 月 11 日（金）**までにお願い致します。

3）振込み先

ゆうちょ銀行　加入者名　日本精神保健社会学会　00170-6－613036

振込名には、個人名および「研究発表」とご記載ください。

機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol.28」の原稿募集

年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しております。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしております。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック(専門校閲)を必ず受けるようにしてください。

1. 原稿締切：2022 年 8 月 20 日（土）

   多くの方の投稿をお待ちしています。

2. 送付方法および送付先

   ＊郵送のみの受付となります。

   詳細は、本学会ホームページの投稿規定をご確認ください。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えらえています。2021 年度の年会費は、2021 年 10 月 1 日から 2022 年 9 月 30 日の期間です。また、2022 年度の年会費は、2022 年 10 月 1 日から 2023 年 9 月 30 日の期間です。2021 年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願いします。会費、振込み先は以下の通りです。

会費　通常会員　5,000 円　　学生会員　3,000 円

振込み先　ゆうちょ銀行　加入者名　日本精神保健社会学会　00170-6－613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と 2 年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

理事の現場から –コロナ禍での最近の学生との関わりの中で–

○ 塩谷 育子

（園田学園女子大学 准教授）

今年度より学会理事を承りました。微力ではありますが、少しでもお役に立てるよう尽力致しますので、ご指導の程よろしくお願いいたします。

この学会に参加させていただくきっかけとなりましたのは、10年以上前にアルコール依存の方へSAT療法による関わりを発表させていただいたことです。参加の先生方からの感想とご意見をいただき、未熟ではありましたが、取り組んでいることについて自信を得たことを覚えています。当時、精神科病院で管理栄養士として働いておりました。栄養指導の傍ら、たくさんの方の人生を聴かせていただきました。多量飲酒をする背景には、本当に様々な人生があるからだと深く思いました。

現在は、管理栄養士の養成課程で学生に臨床栄養学や栄養カウンセリングの科目を担当しています。学生の感想の中に、「高校生の時、自分自身についてとても悩み苦しみました。もっとこういった気質や行動特性のことを知っていれば、気持ちが楽になり、上手く生きられたかもしれないと、とても感じる内容でした。」といった、自己理解につながった、自分の新たな一面に気づけたなど、自己理解と今後に生き方に参考になっていることが嬉しく思っています。

病院実習先で迷惑をかけないよう、厳しく指導をした時には、学生は、失敗してはいけないと、常に緊張感や不安・恐怖感を持っています。本当の自分らしさを発揮できる生き方より、社会に順応できる学生を育てていることに改めて気づきます。実習先でのコメントの中には、会話のキャッチボールができない、問いかけても、返答がなく切れてしまうなど言われることがあります。大人との会話になれていないのか、コミュニケーションが苦手なのか、元気よく会話することができず、自信がない学生も多くいます。昨年からは、ASDやADHDの尺度もチェックし自己理解を深める一つにしています。一見ではわからないちょっとだけ特徴のある学生は、教員側の予測と異なる突拍子もないこともすることがあります。教員側のこだわりから厳しく指導するのではなく、理解しながら実習先や学生同士の組み合わせの参考にしはじめました。こだわりが強いため、何度も確認に訪れます。多いに役立っていることを感じています。

週に一度、クリニックのリワークプログラムを一枠担当しています。参加者の中には、

小学生の時から、親に言われたわけでもないのに、人より勉強ができることで自分の存在価値を得て、人にどう思われるか、周りの目が気になり、人付き合いが苦手であると話されます。常に周りとくらべて、自分にダメ出しをし、身体症状や精神症状を呈し、身動きがとれなくなっています。

周りに認めてもらう生き方を優先するのではなく、自分らしさを大事にできて、自分が機嫌よく過ごせる生き方を軸に、さらに自分の良さを発揮できれば、もっと生き生きできるのではないか、その支援ができればと感じているこの頃です。

コロナ禍におけるストレス状況の中でも、レジリエンス力が高く、逆境の中でも、その時にしかできないことにチャレンジし、あえて楽しむぐらいの気持ちで行動している若者も見かけます。この違いはどこにあるのだろうと考える次第です。元気な若者から、こちらも元気ももらい、励みになっています。

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきています。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見いだし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

2. 指針

①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。

②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。

③国際的にも仲間づくりをすすめていく。

④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。

⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。

⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒171-0021　東京都豊島区西池袋 2-39-8 ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内
日本精神保健社会学会事務局　担当：村上
TEL: 03－3986－3220　FAX: 03－3986－3240　E-mail: murakami@t-mental.co.jp

入会金：5,000 円

会　費：通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先：郵便振替 00170-6-613036　　加入者名:日本精神保健社会学会

※　E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏　名		生年月日	西暦　　年　　月　　日　　歳 （ 男 ・ 女 ）
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員　を希望する	連絡先	所属・自宅　を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL.　　FAX.　　E-mail.		
自宅住所	〒 TEL.　　FAX.　　E-mail.		
所 属 系 （○印）	社会学･文化人類学･経済学･哲学･心理学･社会福祉学･教育学･看護学・医学･保健学･栄養学･体育学･地理学 行政学･政治学･その他（　　）		
関心領域			